

平成 23 年2月8日

各 位

会 社 名 株式会社 EMCOM ホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 竹内 秀人
 (JASDAQ・コード 7954)
 問合せ先 取締役経営企画本部長 三井 規彰
 電話 050-5537-8000

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成22年12月期(平成22年1月1日～平成22年12月31日)において以下の特別損失が発生する見込みとなりましたのでお知らせするとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成22年8月6日に公表した業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1. 特別損失の発生とその内容

「その他有価証券」に区分される未上場の保有投資有価証券に関して、今後の見通し及び財務状況等を精査した結果、帳簿価額に比べ実質価額が著しく下落し、その回復の可能性が認められない銘柄等について、投資有価証券評価損として、連結、個別ともに45百万円を特別損失として計上するとともに、取引先に対する債権の回収可能性を保守的に検討した結果、貸倒引当金繰入額として連結、個別ともに250百万円を計上いたします。

当第4四半期における投資有価証券評価損

	連 結	個 別
(A)平成22年12月期第4四半期(平成22年10月1日から平成22年12月31日まで)の有価証券評価損の総額(=イーロ)	45百万円	45百万円
(イ)平成22年12月期(平成22年1月1日から平成22年12月31日まで)の有価証券評価損の総額	260百万円	171百万円
(ロ)直前四半期(平成22年1月1日から平成22年9月30日まで)累計期間の有価証券評価損の総額	215百万円 ¹	126百万円

※当社の決算期末は、12月31日です。

○純資産額・経常利益額・当期利益額に対する割合

	連 結	個 別
(B)平成21年12月期末の純資産額	3,462百万円	342百万円
(A/B×100)	1.3%	13.2%
(イ/B×100)	7.5%	50.0%
(C)平成21年12月期の経常利益額	1,481百万円	△1,199百万円
(A/C×100)	3.1%	-
(イ/C×100)	17.6%	-
(D)平成21年12月期の当期純利益額	134百万円	△1,366百万円
(A/D×100)	33.7%	-
(イ/D×100)	194.4%	-

2. 業績予想の修正

(1)平成22年12月期(平成22年1月1日～平成22年12月31日)業績予想の修正

連結

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 6,580	百万円 2,170	百万円 2,150	百万円 1,370	4円97銭
今回発表予想 (B)	5,877	2,214	2,328	1,539	5円59銭
増減額(B)－(A)	△702	44	178	169	—
増減率(%)	△10.7%	2.0%	8.2%	12.4%	—
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期)	7,343	2,149	1,481	134	0円53銭

個別

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 260	百万円 △350	百万円 △350	百万円 290	1円6銭
今回発表予想 (B)	253	△340	△378	303	1円10銭
増減額(B)－(A)	△6	9	△28	13	—
増減率(%)	△2.5%	—	—	4.5%	—
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期)	45	△611	△1,199	△1,366	△5円39銭

(2)修正理由

平成22年12月期第3四半期以降の連結業績につきましては、主力の金融事業において、平成22年8月に外国為替証拠金取引(以下、「FX」といいます。)における証拠金規制(レバレッジ規制)が実施されたほか、相場環境の停滞等に起因する投資マインドの低下により、業界全体で取引高が減少傾向に転じたこと等を要因とし、通期における売上高は5,877百万円(前回予想比10.7%減)と前回予想を下回ることとなりました。なお、平成22年7月20日付にて株式会社EMCOM CAPITALのFX事業及び有価証券関連事業を譲渡したことに伴い当該

売上高は連結対象外となり、これまで内部取引として連結相殺されていた OTC-FX 取引サービスの「みんなの FX」に係るシステム利用料収入は、当第3四半期より外部売上として連結売上高に計上されております。

このような事業環境の変化を受けて、当社グループでは全事業を対象とした売上高の推移に対応する機動的なコスト削減並びに、業務効率化等のコストコントロール施策が好調に機能した結果、営業利益は 2,214 百万円(前回予想比 2.0%増)と一定額を確保するとともに、経常利益は 2,328 百万円(前回予想比 8.2%増)、当期純利益は 1,539 百万円(前回予想比 12.4%増)といずれも前回予想を上回る見込みです。

個別業績においては、売上高、営業利益は概ね前回予想どおりに推移したものの、子会社からの借入に伴う支払利息割引料の発生により、経常利益は△378 百万円と前回予想を 28 百万円下回りましたが、一方でグループ各社の業績の変動により、連結納税に係る個別の税金費用が減少する見通しであることから、当期純利益は 303 百万円(前回予想比 4.5%増)と前回予想を上回る見込みです。

(注)業績予想につきましては、いずれも本資料の発表日において入手可能な情報に基づくものであり、今後の不確定な要因により実際の業績が予想値と異なる場合があります。

以 上

¹ 在外子会社が有する投資有価証券の評価において、為替レートの変動が生じたことより、直前四半期累計期間における投資有価証券評価損(連結)の計上額が変動いたしております(前回公表値 216 百万円)。